石見銀山領 33 ヵ所巡り魅力発見講演会 part2　2022 年 11 月 13 日於大田市民会館中ホール

真宗地帯石見の宗教事情

小林准士（島根大学）

はじめに

・昨年の井上寛司氏講演
　石見銀山領 33 ヵ所：曹洞宗 15 ヶ寺、真言宗 11 ヶ寺、臨済宗 3 ヶ寺、浄土宗 2 ヶ寺、天台宗 1 ヶ寺　不明 1 ヶ寺
　　創建時期の宗派は天台・真言が多かったことを指摘。
　　寺院タイプとしては、神社の神宮寺・別当寺、武家によって創建された菩提寺が多い。
・本講演では、明治期中頃（15 年～）に作成された石見国各郡の「寺院明細帳」（島根県立図書館蔵）の記載（今回は安濃・邇摩・邑智と那賀郡の一部、すなわち石見東部に限定）を検討する。
・石見国東部寺院の宗派的特徴から銀山 33 ヶ所の特徴について考える。

1　石見銀山領33ヶ所寺院の特徴（表0）

・観音菩薩を本尊とする寺院は 16 ヶ寺（真言宗が多い）、阿弥陀如来を本尊とする寺院 5 ヶ寺、釈迦如来は 7 ヶ寺（すべて禅宗寺院）、薬師如来 2 ヶ寺（曹洞宗）、大日如来と虚空蔵菩薩は各 1 ヶ寺。観音を本尊としない寺院の場合は管理している観音堂が巡礼対象となる。
　（例）５番勝源寺：本尊は阿弥陀如来。「寺院明細帳」によれば、観音堂は「勝源寺五代住職尊誉、延宝二寅年四月、美濃国谷汲山ヨリ授与」とある。観音巡礼を当初（1674）から意識して観音堂を創建した可能性がある。巡礼の成立は元禄 5 ～ 6 年（1692 ～ 3）とされる（藤原雄高「石見銀山領の観音巡礼」、『石見銀山領三十三ヵ所巡り』桜江古文書を現代に活かす会、2019 年）
・地域分布としては浜原以南の江の川上流域、つまり邑智郡南部にはない。
・真言宗寺院は邇摩郡に集中している（祖式と川下を除く）。
・曹洞宗寺院は長江寺末 4、龍昌寺末 2 が比較的多い。両寺も 33 ヶ所に含まれる。
・檀徒数の上位 10 ヶ寺は浄土・曹洞・臨済で、真言宗では波諦寺の 115 人が最高（11 位）、真言宗寺院の檀徒数は少ない傾向。
・「石州銀山近里巡礼縁起」（中村家蔵、前掲『石見銀山領三十三ヵ所巡り』に翻刻）
　33 ヶ所以外に　銀山の長安寺、快算院（都治本郷）、観音寺（久手浦）なども出るように、観音菩薩を本尊とする寺院は外にもある（表 0-2）。曹洞宗寺院が多く、那賀郡には真言宗寺院も多いという状況。

２　石見国東部の寺院の宗派的特徴

■表１
・浄土真宗寺院とくに西本願寺の末寺が多く 6 割弱を占める。
・次に曹洞宗、浄土宗、真言宗、日蓮宗、臨済宗、天台宗の順。
■表２・３
・檀信徒でみると、差はさらに広がり浄土真宗は 8 割を越え数的優勢が顕著。浄土、曹洞、日蓮、臨済、真言、天台の順となり、寺院数の順序と入れ替わる。
■表４
・寺院数と檀信徒数の順が宗派で入れ替わる理由は、1 ヶ寺当たりの檀徒数が異なるため。
・１ヶ寺当たりの平均檀徒数は、浄土真宗、浄土宗が多い。顕密寺院（真言、天台）は檀徒数が少ない。
・真言宗寺院は檀徒数よりも信徒数が多い傾向にある。祈祷寺が多いためか。
（例）神宮寺（札所 2 番）は「山神宮別当職」とある。
■表５
・檀徒数上位 10 ヶ寺は浄土宗長福寺を除くと、すべて浄土真宗寺院。
■表６
・数的優勢を誇る浄土真宗寺院はすべて阿弥陀如来を本尊としている。浄土宗もほとんどが阿弥陀如来であるが、観音や薬師などを本尊としている寺院もあるのは注目される。
（例）安濃郡波根西村柳瀬の河元寺は享保 5 年（1720）に創立された観音堂がもとの浄土宗寺院のようである（現在は阿弥陀如来を本尊としている模様）。
・日蓮宗寺院の場合、一致派は釈迦如来や多宝如来、本門（現在は日蓮本宗、本山は京都の要法寺）は十界勧請曼荼羅と日蓮像を基本としており、宗派の教義にほぼ従っている。
・観音、地蔵、薬師などを、浄土真宗、日蓮宗寺院は本尊としない。
・臨済、曹洞の禅宗寺院の本尊は多様といえるが、曹洞宗については釈迦が多い傾向にある。しかし観音も多い点は注目される。
・真言宗寺院の本尊はきわめて多様。特に高野山正智院の末寺にその傾向が顕著。
■表７
・境内に祀っている仏堂（数の多い観音、地蔵、薬師に限った）の傾向としては、観音よりもむしろ地蔵のほうが人気。
・数のさほど多くない浄土宗寺院の境内に仏堂が多いという際だった特徴。
・阿弥陀如来以外の仏像を安置することが教義の上からは憚られるはずの浄土真宗と日蓮本宗の寺院に仏堂がある点は注目される。何らかの事情があるはず。
（例）那賀郡八神村住蓮寺（西本願寺末）内の薬師堂はもと同村字細川にあったものを、明治維新後に移転した旨が記載されている。
（例）大森町妙蓮寺に地蔵堂が確認できる。同寺はもと本門宗だったが日蓮宗に改派したか。本門宗（現在は日蓮本宗）はそもそも仏像安置に否定的なはず。
・なお、「寺院明細帳」には寺院境外の仏堂は記載されていない。実際にはこれよりはるかに多くの仏堂が地域には存在し寺院によって管理されていたはず。

３　真宗地帯石見における観音巡礼の意味

・33 ヶ所には浄土真宗、日蓮宗は含まれていない。真宗では阿弥陀如来以外の仏菩薩・神祇への帰依は勧められていないため。また日蓮宗では法華勧請以外の神仏を信仰してはならない（日蓮宗僧侶が関与しない神仏には参らない建て前）。すると観音巡礼が宗派の教義と矛盾しない檀徒は、人口比で 17 %弱程度と少数派になってしまう（表３、ただし銀山領とくに江の川以北に限るともう少し多いと思われる）。

（例）石見国邑智郡阿須那村西蓮寺門徒庄屋源三郎（『妙好人伝』、『大系真宗史料　伝記編 8 妙好人伝』法蔵館、2009 年所収）

「…明和四年の春、はじめて御本山へ拝礼せんとて、上京の願を代官所へ出さんとするに、願書の案文、出羽組の代官より認め出されけり。その文言に、今度私義立願の子細有之、伊勢参宮仕度ぞんじ奉り候間、何日より何日ごろまて、御暇願ひ奉り候と、案文のごとく認め、已に印形押ときに当て、源三郎つらつら思ふやう。御宗旨にてハ現世の祈祷もせぬといふ御作法なるに、御本山まゐりのための上京に、立願の子細にて参宮といふ願書ハ、全くいつはりにして、一ハ仏祖の照覧にたいし、一ハ御公儀へたいし本意ならず。また、万一途中にて、或ハ病気、或ハ死るといふやうな時、いかなる訳にて願書ふたゝび他人の目にかゝるまじきも斗りがたく、源三郎ハ真宗の流を汲ながら、立願ありて参宮したりと笑ふものあるべし。或ハ、役目も勤る人さへ法に背るゝといひて惑ふ人も有べし。かたがたもつて此願書ハ差上られぬとて、阿須那村よりわざわざ出羽の代官所へ至り、この由を具に申解き、願書の文言を改、京都本寺へ参詣仕度候といふ文言に書改たりとなん。」

＊阿須那は浜田藩領。真宗では本山参詣、二十四輩巡礼以外推奨されない。

・33 ヶ所を構成する寺院には檀信徒の少ない寺院が目立つことを踏まえると、宗派を超えた信仰をそれらの寺院が集める機会になっていたということができる。
・石見国単位の 33 ヶ所もそうであるが、真宗地帯石見で観音巡礼がどの程度盛んであったのか、実態解明が俟たれる。出雲国の巡礼が盛んだったことは諸史料からうかがえる。出雲では観音巡礼を許容する宗派のほうが数的優勢であった。

おわりに

・出雲国松江城下の町人新屋太助は、松江の真宗寺院で僧侶の法談、法話を頻繁に聴聞し、同宗の教えに親しんでいたことが、彼の遺した日記からうかがえる（拙稿「松江城下の町人新屋太助の真宗信仰」、同『日本近世の宗教秩序―浄土真宗の宗旨をめぐる紛争』塙書房、2022 年）。
・しかし彼は観音菩薩に対する信仰も厚く、出雲札に２度、島根札に１度赴いていることが日記から確認できる。真宗地帯では門徒の中には観音信仰をいただいて人々がそれなりにいた可能性がある。